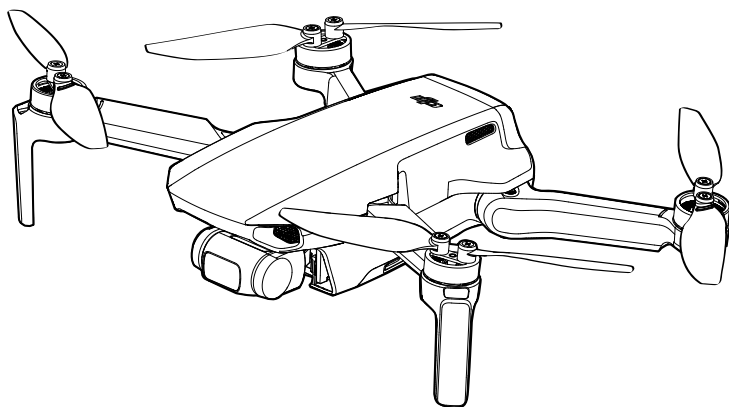


dji MINI 4K

ユーザーマニュアル v1.0 2025.02



キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを見つけます。Adobe Acrobat Reader で本書を閲覧している場合は、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押すことで検索を開始できます。

トピックへの移動

目次のトピック一覧をご覧ください。トピックをクリックすると、そのセクションに移動できます。

本書の印刷

本書は高解像度での印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™ Mini 4K を使用する前に、以下の資料をお読みください。

1. ユーザーマニュアル
2. クイックスタートガイド
3. 免責事項と安全に関するガイドライン

DJI のウェブサイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、免責事項と安全に関するガイドラインをお読みください。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、DJI Mini 4K のチュートリアルビデオを視聴でき、DJI Mini 4K を安全にお使いいただく方法を知ることができます：

<http://s.dji.com/guide76>



DJI Fly アプリのダウンロード

飛行中は、必ず DJI Fly アプリを使用してください。QR コードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

Android 版の DJI Fly は、Android v7.0 以降で動作します。iOS 版の DJI Fly は、iOS v11.0 以降で動作します。

* より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合は、飛行高度が 30 m、飛行範囲が 50 m に制限されます。これは DJI Fly および DJI の機体に対応するすべてのアプリに適用されます。



この製品の動作環境温度は、0℃ ～ 40℃ で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃ ～ 125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に動作させ、そのグレードの動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
初めてのフライト前にお読みいただくもの	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Fly アプリのダウンロード	3
製品の特徴	7
MTOM について	7
機体の準備	7
送信機の準備	8
機体の各部名称	9
送信機の各部名称	9
DJI Mini 4K のアクティベーション	10
機体	12
フライトモード	12
機体ステータスインジケーター	13
RTH（Return-to-Home：帰還）	14
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム	16
インテリジェント フライトモード	18
フライトレコーダー	19
プロペラ	19
インテリジェント フライトバッテリー	21
ジンバル&カメラ	24
送信機	27
送信機の使用	27
最適な伝送範囲	30
送信機のリンク	31
送信機の警告	31
DJI Fly アプリ	33
ホーム	33
カメラビュー	33

飛行	38
飛行環境の条件	38
責任ある機体操作	38
飛行制限と GEO 区域	39
フライト前チェックリスト	41
自動離陸／自動着陸	41
モーターの始動と停止	42
飛行テスト	43
付録	45
仕様	45
コンパスのキャリブレーション	45
ファームウェアの更新	46
アフターセールス情報	46
メンテナンスについての指示	46
認定アクセサリーを含む品目一覧	47
スペアおよび交換部品の一覧	47
セーフガードの一覧	47
リスクと警告	48
廃棄処分について	48

製品の特徴

本セクションでは DJI Mini 4K について紹介し、機体と送信機の各部名称について説明します。

製品の特徴

MTOMについて

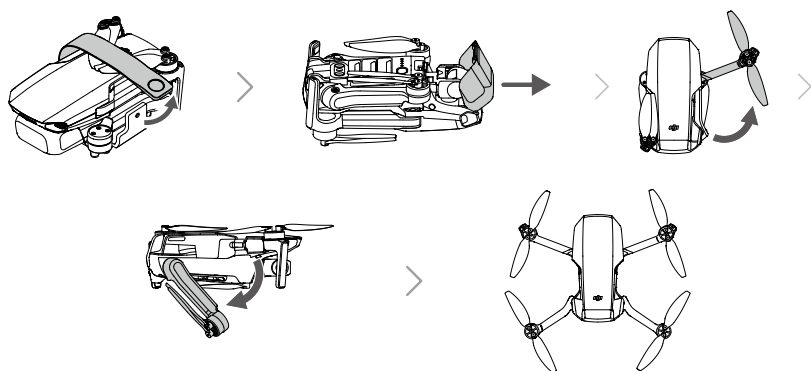
DJI Mini 4K (MT2SDモデル) はクワッドローター機です。最大離陸重量 (MTOM)は、microSDカードを含めて246 gです。飛行の安全性を確保するために、以下の指示に従ってください。

1. 元のパッケージに含まれていないペイロード、または機体の使用が認められていないペイロードを機体に追加しないでください。
2. プロペラやインテリジェント フライトバッテリーなどで、適用条件を満たしていない交換部品を使用しないでください。
3. 機体を改造しない。

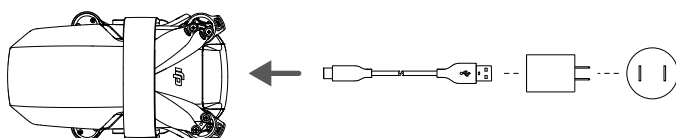
機体の準備

梱包時には、機体のすべてのアームは折りたたんだ状態です。以下の手順に従って、機体を展開してください。

1. プロペラホルダーを取り外します。
2. カメラからジンバル プロテクターを取り外します。
3. 以下に示すように、前方アーム、後方アーム、すべてのプロペラの順で展開します。



4. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。初めて使用する際は、USB 充電器を使用して、インテリジェント フライトバッテリーを充電してアクティベーションしてください。



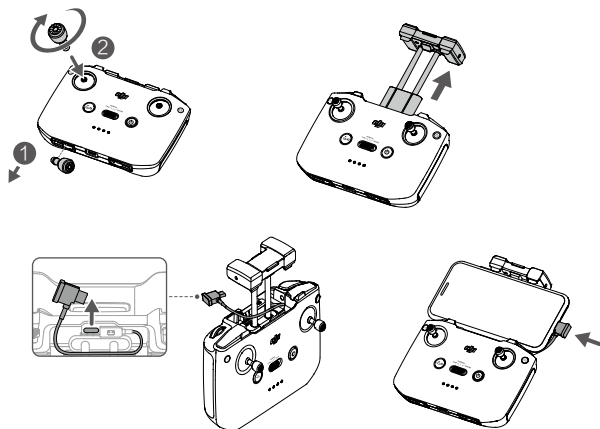
• ジンバルを保護するためにジンバル プロテクターを取り付け、機体を使用されていないときはプロペラホルダーを使用してプロペラを固定することをお勧めします。



- プロペラホルダーはコンボパッケージにのみ含まれています。
- 前方のアームを広げてから、後方のアームを広げます。
- ジンバル プロテクターを取り外し、すべてのアームを広げてから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。

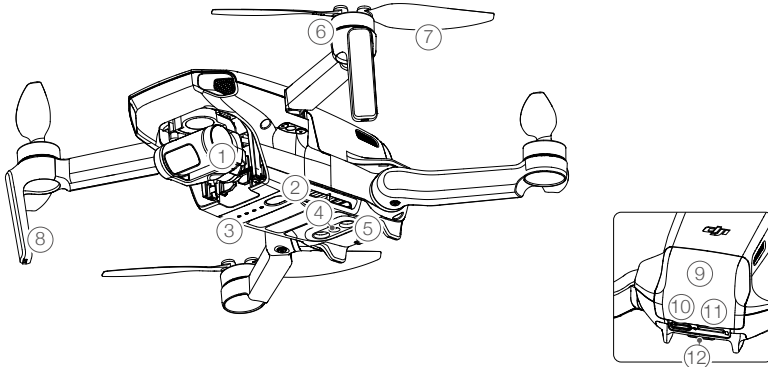
送信機の準備

1. 操作スティックを送信機の収納スロットから取り外し、所定の位置にねじって取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。モバイル端末の種類に合わせて、適切な送信機ケーブルを選択してください。Lightning コネクタケーブル、Micro USB ケーブルと USB-C ケーブルが同梱されています。送信機ロゴのない方のケーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかり固定されていることを確認してください。



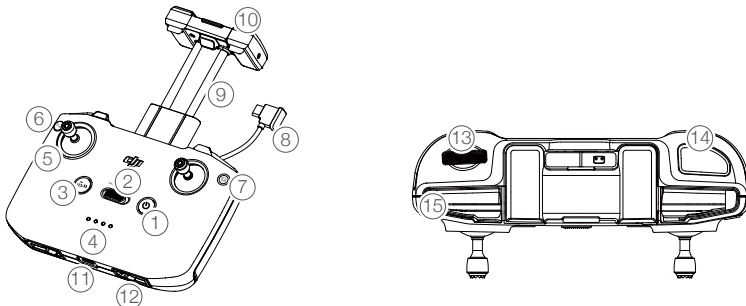
- Android モバイル端末を使用しているときに USB 接続プロンプトが表示された場合は、[充電のみ] を選択してください。この手順に従わないと、接続に失敗することがあります。

機体の各部名称



- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. ジンバル&カメラ | 7. プロペラ |
| 2. 電源ボタン | 8. アンテナ |
| 3. バッテリー残量 LED | 9. バッテリー収納部カバー |
| 4. 下方ビジョンシステム | 10. USB-C ポート |
| 5. 赤外線検知システム | 11. microSD カードスロット |
| 6. モーター | 12. 機体ステータスインジケーター |

送信機の各部名称



- | | |
|--|--|
| <p>1. 電源ボタン</p> <p>ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。ボタンを 1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン/オフを切り替えられます。</p> | <p>3. 飛行一時停止 / RTH (Return-to-Home) ボタン</p> <p>ボタンを 1 回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います (GPS または下方ビジョンシステムが利用可能な場合のみ)。このボタンを長押しすると、RTH を起動します。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度押すと、RTH はキャンセルされます。</p> |
| <p>2. フライトモードスイッチ</p> <p>スポーツ、ノーマル、シネモードを切り替えます。</p> | |

4. バッテリー残量インジケーター
送信機の現在のバッテリー残量を表示します。
5. 操作スティック
操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。DJI Fly の操作スティックモードを設定します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。
6. カスタムボタン
1 回押すと、ジンバルを再センタリングする、もしくはジンバルを下方に傾けます（デフォルト設定）。このボタンは DJI Fly で設定できます。
7. 写真／動画の切り替え
1 回押すと、写真モードと動画モードを切り替えます。
8. 送信機ケーブル
送信機ケーブルを介してビデオリンクするモバイル端末に接続します。モバイル端末の種類に合ったケーブルを選択してください。
9. モバイル端末ホルダー
モバイル端末を送信機にしっかりと取り付けるために使用します。
10. アンテナ
機体制御信号と動画無線信号を中継します。
11. USB-C ポート
送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。
12. 操作スティック収納スロット
操作スティックの収納用です。
13. ジンバルダイヤル
カメラのチルトを操作します。カスタムボタンを長押したまま、ジンバルダイヤルを使用すると、動画モードでズームを調整します。
14. シャッター／録画ボタン
1 回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。
15. モバイル端末スロット
モバイル端末を固定するために使用します。

DJI Mini 4K のアクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mini 4K をアクティベーションする必要があります。機体と送信機の電源を入れた後、DJI Fly で画面上の指示に従って DJI Mini 4K をアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

機体

DJI Mini 4K は、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

機体

フライトモード

DJI Mini 4Kには、3つのフライトモード、加えて特定のシナリオで機体のモードが切り替わる第4のフライトモードがあります。送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（Nモード）：機体はGPSと下方ビジョンシステムを使用して、自らの位置を把握しながら安定します。このモードでは、インテリジェント フライトモードが有効になります。GPS信号が強いときには機体はGPSを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GPS信号が弱く、周囲が十分に明るいときには、機体は下方ビジョンシステムを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。下方ビジョンシステムが有効で、十分に明るい場合、最大飛行高度角度は25°、最大速度は10m/sです。

スポーツモード（Sモード）：スポーツモードでは、機体はGPSと下方ビジョンシステムを使用して、測位します。敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きへの反応がより機敏になります。最大飛行速度は16 m/s、最大上昇速度は5 m/s、最大下降速度は3.5 m/sです。

シネモード（Cモード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。最大飛行速度は6 m/s、最大上昇速度は2 m/s、最大下降速度は1.5 m/sです。

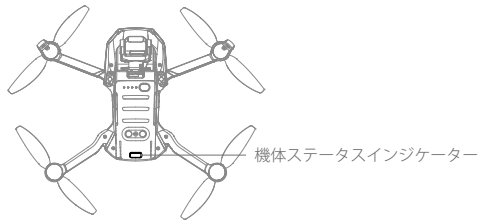
下方ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつGPS信号が弱い場合コンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTIモード）に切り替わります。ATTIモードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって水平方向に移動することがあり、狭いスペースを飛行している際は特に危険を招くおそれがあります。このモードでは、機体が自身の位置を測位したり自動的にブレーキをかけたりすることができないため、操縦者は事故を避けるためにできるだけ早く機体を着陸させる必要があります。



- 機体は、ルート上の障害物を自動検知できません。操縦者は周囲の環境に注意を払い、障害物を避けて機体を制御する必要があります。
- スポーツモードでは、機体の最大速度が向上し、制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも30 m必要です。
- スポーツモードでは、下降速度が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも10 m必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は細心の注意を払い、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。
- ノーマルモードまたはシネモードの動画モードでは、ジンバルのピッチが-90° または0° に近い場合、撮影を安定させるために飛行速度が制限されます。強風の場合は、機体の風圧抵抗を向上させるために速度制限を無効にします。その結果、録画中にジンバルが振動することがあります。

機体ステータスインジケータ

DJI Mini 4Kには機体ステータスインジケータが搭載されており、機体の飛行制御システムの状態を示します。機体ステータスインジケータについての詳細は、下表を参照してください。





機体ステータスインジケータの状態



正常の状態		
.....	赤色、黄色、緑色、青色、紫色に交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行
.....	紫色にゆっくり点滅	ウォーミングアップ
.....	緑色にゆっくり点滅	GPS有効化
× 2	緑色に2回点滅を繰り返す	下方ビジョンシステムが有効
.....	黄色にゆっくり点滅	GPSおよび下方ビジョンシステムが無効（ATTIモードが有効）
.....	緑色にすばやく点滅	制動中
警告の状態		
.....	黄色にすばやく点滅	送信機の信号ロスト
.....	赤色にゆっくり点滅	バッテリー残量低下
.....	素早い赤色点滅	バッテリー残量極度に低下
.....	赤色点滅	IMUエラー
—	赤色点灯	重大なエラー
.....	赤色と黄色に交互に点滅	コンパスキャリブレーションが必要

RTH（Return-to-Home：帰還）

GPS信号が強力な場合、RTH（Return-to-Home：帰還）機能により、機体は最後に記録されたホームポイントに戻り、着陸します。RTHには3種類あります。スマートRTH、ローバッテリーRTH、フェールセーフRTHです。機体がホームポイントを正常に記録し、GPS信号が強力な場合、ユーザーがスマートRTHを起動した時、機体のバッテリー残量が少ない時、または送信機と機体間の信号が失われた時に、RTHが起動します。動画伝送が中断したなどの他の異常が発生した場合にも、RTHが起動します。

	GPS	説明
ホームポイント	 10	デフォルトのホームポイントは、強いGPS信号またはやや強いGPS信号（白いアイコンで表示）を機体が最初に受信した場所です。飛行前に、ホームポイントが正常に記録されるまで待つことをお勧めします。ホームポイント記録後は、機体のステータス インジケーターが緑色点滅し、DJI Flyにプロンプトが表示されます。ユーザーの位置が変更された場合など、飛行中にホームポイントを更新する必要がある場合、DJI Flyの[システム設定]の[安全]でホームポイントを手動で更新できます。

スマートRTH


十分に強いGPS信号を受信している場合は、スマートRTHを使用して機体をホームポイントに戻すことができます。DJI Flyで  をタップするか送信機のRTHボタンを長押しすることで、スマートRTHを起動します。DJI Flyで  をタップするか送信機のRTHボタンを押すことで、スマートRTHを終了できます。

ローバッテリーRTH

電力不足による不必要な危険を回避するために、DJI Mini 4Kは、現在地に基づいて、バッテリー残量が帰還するのに十分であるかどうかを判断します。インテリジェント フライトバッテリー残量が、安全な帰還に影響が出る残量にまで減少すると、ローバッテリーRTHが起動します。

送信機のRTHボタンを押すことでRTHをキャンセルできます。ローバッテリー残量（バッテリー残量低下）警告が出た後にRTHをキャンセルすると、インテリジェント フライトバッテリーの残量不足で安全に着陸できず、墜落したり紛失したりするおそれがあります。

バッテリー残量が極度に少ない場合、機体は自動着陸します。自動着陸はキャンセルできませんが、送信機を使用して、着陸中の機体の水平方向の動きや下降速度は調整できます（現在の高度から下降するだけのバッテリー残量しかない場合は、下降速度を調整できません）。

 インテリジェント フライトバッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。電力がなくなると、機体は墜落し、機体が損傷したり、その他の事故を引き起こす可能性があります。

フェールセーフRTH

送信機信号が失われた時の機体のアクションを、DJI Flyで[Return-to-Home]、[着陸]、[ホバリング]の中から設定できます。アクションを[Return-to-Home]に設定し、ホームポイントが記録され、GPS信号が良好で、コンパスが正常に機能している場合、送信機信号が11秒以上失われると、フェールセーフRTHが自動的に起動します。

機体は元の飛行ルート上を50 m戻るように飛行し、現在のRTH高度まで上昇して直線RTHモードに移行します。機体が元の飛行ルートに沿って後方に飛行し、ホームポイントから20 m未満になると、機体は元の飛行ルートに沿った後方飛行を停止し、現在の高度で直線RTHを開始します。

RTH中に送信機信号が回復したとしても、機体は直線RTHに入るか直線RTHを継続して実行します。

その他のRTH適用シナリオ

送信機がまだ機体の動きを制御できる状態で飛行中にビデオリンクの信号が失われた場合は、RTHを開始するようにプロンプトが表示されます。RTHはキャンセルすることができます。

RTHの手順（直線）

1. ホームポイントが記録されます。
2. RTHが起動します。
3. a. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が20 m 未満の場合、機体はその場でホバリングし、ホームには戻りません。
b. RTHの開始時に機体がホームポイントから20 m以上離れている場合、機体は現在のRTH高度まで上昇し10.5 m/sの水平速度で帰還します。現在の高度がRTH高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
4. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。



- GPS 信号が弱いまたは利用不可の場合、機体はホームポイントに戻れないことがあります。RTH が起動された後に GPS 信号が弱くなるか使用できなくなると、機体はしばらくその場でホバリングしてから着陸します。
- 飛行の前には、その都度、適切な RTH 高度を設定してください。DJI Fly を起動して、RTH 高度を設定します。スマート RTH およびローバッテリー RTH では、機体の現在の高度が RTH 高度より低い場合、機体はまず自動的に RTH 高度まで上昇します。現在の高度が RTH 高度に達しているか、それよりも高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
- RTH 中、送信機信号が正常な場合、送信機を使用して機体の速度、高度、向きを制御できます。ただし、送信機を使用して左右にパンすることはできません。機体が上昇中または前方に飛行している場合、操作スティックを反対方向に最後まで倒すと、機体は RTH を終了して、その場でホバリングします。
- GEO 区域は RTH に影響します。RTH 中に機体が GEO 区域内に入ったときには、その場でホバリングします。
- 風速が大きすぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。

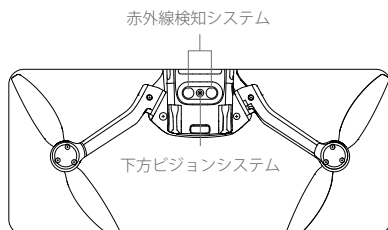
着陸保護

着陸保護機能は、スマート RTH 中に有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、注意深く着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、DJI Mini 4K はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地表 0.5m 未満まで下降すると、DJI Fly が着陸プロンプトを表示します。[確認] をタップするか、スロットルスティックを下に倒して着陸します。

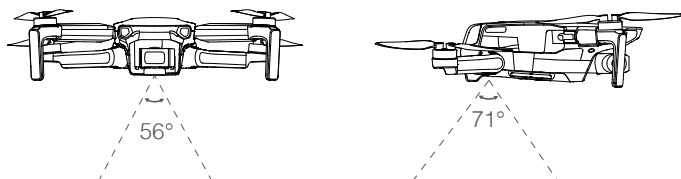
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Mini 4K には、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが搭載されています。下方ビジョンシステムは 1 個のカメラで構成され、赤外線検知システムは 2 個の 3D 赤外線モジュールで構成されています。下方ビジョンシステムと赤外線検知システムは、GPS を利用できない室内やその他の環境下で飛行するために、機体が現在位置を維持し、より正確にホバリングできるようにします。



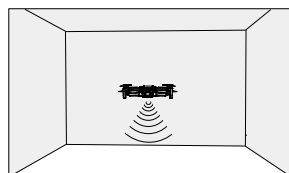
検知領域

下方ビジョンシステムは、機体が高度 0.5 ～ 10 m にあり、その動作範囲が 0.5 ～ 30 m の場合に最も効果的に動作します。



ビジョンシステムの使用

GPS を使用できない場合、地面の質感がはっきりしていて、十分な明るさがあるときは、下方ビジョンシステムが有効になります。下方ビジョンシステムは、機体が高度 0.5 ～ 10m にある場合に最も効果を発揮します。機体の高度が 10 m を超える場合は、ビジョンシステムが影響を受ける場合があります。細心の注意が必要です。



下方ビジョンシステムを使用するには、次の手順に従ってください。

1. 機体がノーマルモードあるいはシネモードであることを確認します。機体の電源を入れます。
2. 離陸後、機体はその場でホバリングします。機体ステータスインジケーターが緑色で2回点滅し、下方ビジョンシステムが動作していることを示します。








- 飛行環境に注意してください。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、限られた条件下でのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境と DJI Fly の警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。
- GPS が利用できない場合、機体の最大ホバリング高度は 5 m です。
- 機体が水面上を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体が機体下の水面を完全に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに完全に依存しないようにしてください。
- 機体が過度に高速で飛行している場合は、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが適切に機能しないことがあるのでご注意ください。赤外線検知システムは、飛行速度が 12 m/s 以下の場合にのみ有効になります。
- 下方ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の上空または照明が不十分である場合、適切に機能しません。下方ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。機体を注意深く操作してください。
 - a) モノクロ（黒一色、白一色、緑一色など）の地表面上を飛行している場合。
 - b) 反射率が高い地表面上を飛行している場合。
 - c) 水面または透明な地表面上を飛行している場合。
 - d) 動く面または物体の上空を飛行している場合。
 - e) 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
 - f) 非常に暗い（10 ルクス未満）または非常に明るい（40,000 ルクス超）地表面上を飛行している場合。
 - g) 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）の上空を飛行している場合。
 - h) はっきりした模様や構造のない地表面上を飛行している場合（電柱など）。
 - i) 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面上を飛行している場合。
 - j) 表面積の小さい障害物（木枝など）上を飛行している場合。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーを覆ったり、遮ったりしないでください。ほこりや湿気のある環境では、使用しないでください。赤外線検知システムを遮断しないでください。
- 雨や霧、または視界が 100 m 未満の場合は飛行しないでください。
- 離陸前に必ず以下を確認してください。
 - a) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムにステッカーが貼られていないことや、その他の障害物がないことを確認します。
 - b) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
 - c) 赤外線検知システムおよび下方ビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

インテリジェント フライトモード

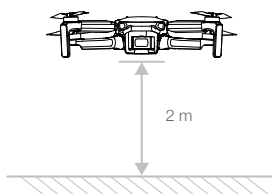
クイックショット

クイックショット撮影モードには、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメランがあります。DJI Mini 4K は、選択した撮影モードに従って録画し、短編動画を自動的に生成します。動画は再生画面で表示、編集したり、SNS で共有したりできます。

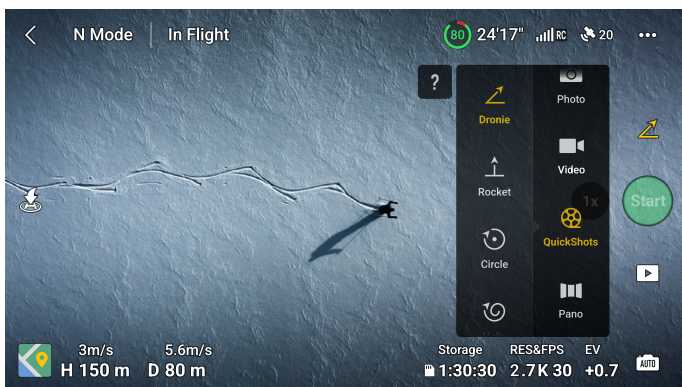
-  **ドローニー**: 機体は、対象にカメラをロックした状態で後上方に飛行します。
-  **ロケット**: 機体は、カメラを下に向けた状態で上昇します。
-  **サークル**: 機体は、被写体周囲を旋回します。
-  **ヘリックス**: 機体は、被写体周囲をスパイラル状に上昇しながら旋回します。
-  **ブーメラン**: 機体は楕円を描きながら始点から離れる時に上昇し、下降しながら始点に戻るパターンで対象の周りを旋回します。機体の始点は楕円の長軸の一端を形成し、長軸のもう一方の端は始点から見て被写体の反対側にあります。ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径 30 m 以上、上空は 10 m 以上必要です。


クイックショットの使用

1. インテリジェント フライトバッテリーが十分に充電されていることを確認してください。離陸したら、地上から 2m 以上の高さでホバリング状態にします。



2. DJI Fly で撮影モードアイコンをタップし、[クイックショット]を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。



3. 撮影モードを選択し、カメラビューで対象を選択（対象上の円をタップするか対象の周りをドラッグしてボックスを作成）して、[開始]をタップして録画を開始します。撮影が終了すると機体は元の位置に飛行して戻ります。
4. をタップして、短編動画または元の動画にアクセスします。動画はダウンロードした後、編集したり、SNS で共有したりできます。

クイックショットの終了

飛行一時停止／RTH ボタンを 1 回押すか、DJI Fly で  をタップしてクイックショットを終了します。機体はその場でホバリングします。





- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路上に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
 - a) 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
 - b) 被写体が機体から 50 m 以上離れている場合。
 - c) 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
 - d) 被写体が空中にある場合。
 - e) 被写体が速く動いている場合。
 - f) 照明が非常に暗い（300 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
- 建物の近くや GPS 信号が弱い場所でクイックショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
- クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどの飛行データは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローンシリーズ）を使用して、データにアクセスできます。

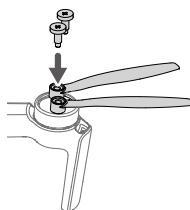
プロペラ

DJI Mini 4K のプロペラには 2 種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。記載されているマークは、どのモーターに取り付けるべきかを示しています。1 つのモーターに取り付ける 2 つのブレードは同じものです。

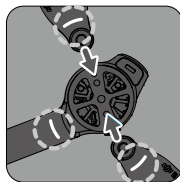
プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
搭載位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

プロペラの取り付け

マークのあるプロペラは、同じくマークのあるアームのモーターに取り付け、マークのないプロペラは、同じくマークのないアームのモーターに取り付けます。ドライバーを使用して、プロペラを取り付けます。プロペラがしっかり固定されていることを確認してください。



マークなし



マークあり

プロペラの取り外し

ドライバーを使用して、プロペラをモーターから取り外します。




- プロペラブレードは先端が鋭くなっています。注意して扱ってください。
- ドライバーは、プロペラの取り付けにのみ使用します。ドライバーを使用して機体を分解しないでください。
- プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラ（2つ）とねじ（2つ）を取り外して廃棄します。同じパッケージに同梱されているプロペラを使用してください。他のパッケージのプロペラと混ぜないでください。
- DJI公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- 必要があればプロペラを別途購入してください。
- 飛行前に、毎回プロペラが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間 30 時間（約 60 回分のフライト）ごとに、プロペラのネジの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
- 各飛行ごとに、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
- 怪我を避けるために、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- 保管時は、機体を正しく配置してください。プロペラの固定にはプロペラホルダーの使用をお勧めします。移動または保管中にプロペラをひねったり、折り曲げたりしないでください。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源をオンにした時、ESC の動作音に異常がないことを確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

DJI Mini 4K のインテリジェント フライトバッテリーは、スマートな充放電機能を搭載した 7.7V、2250mAh バッテリーです。

バッテリーの機能

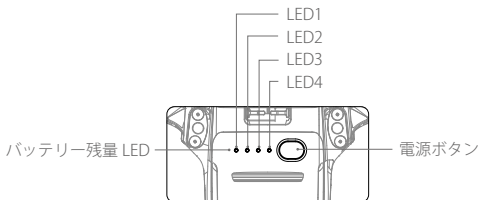
1. バランス充電：充電時、バッテリーセルの電圧は自動でバランス調整されます。
2. 過充電保護：バッテリーが完全に充電されると、充電は自動的に停止します。
3. 温度検知：損傷を防ぐために、バッテリーは、温度が 5℃～40℃ の場合にのみ充電されます。充電プロセス中にバッテリーの温度が 50℃ を超えると、充電は自動的に停止します。
4. 過電流保護：過電流が検知されるとバッテリーの充電は停止されます。
5. 過放電保護：飛行で使用されている場合を除いて、バッテリーの放電は自動的に停止して過放電を防ぎます。飛行で使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
6. 短絡保護：短絡が検知されると、電源が自動的に遮断されます。
7. バッテリーセルの損傷保護：DJI Fly は、損傷したバッテリーセルを検知すると警告プロンプトを表示します。
8. ハイバネーション モード：バッテリーセルの電圧が 3.0V 未満、またはバッテリー残量が 10% 未満の場合、バッテリーはハイバネーション モードに入り、過放電を防止します。バッテリーを充電すると、ハイバネーション モードから復帰します。
9. 通信：バッテリーの電圧、容量、電流に関する情報は、機体に送信されます。


 ・ご使用の前に、DJI Mini 4K の免責事項と安全に関するガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ユーザーはすべての使用と操作に対する責任を負うものとします。

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを 1 回押して、バッテリー残量を確認します。



 バッテリー残量インジケータは、充電中および放電中のフライトバッテリーの残量を表示します。インジケータのステータスは次のように定義されます。

○ LED 点灯。☀ LED 点滅。○ LED 消灯。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
○	○	○	○	バッテリー残量 > 88%
○	○	○	☀	75% < バッテリー残量 ≤ 88%
○	○	○	○	63% < バッテリー残量 ≤ 75%
○	○	☀	○	50% < バッテリー残量 ≤ 63%
○	○	○	○	38% < バッテリー残量 ≤ 50%
○	☀	○	○	25% < バッテリー残量 ≤ 38%
○	○	○	○	13% < バッテリー残量 ≤ 25%
☀	○	○	○	0% < バッテリー残量 ≤ 13%

電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押し、次に2秒間長押しするとバッテリーの電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れると、バッテリー残量 LED にバッテリー残量が表示されます。

電源ボタンを1回押しと、4つのバッテリー残量 LED が3秒間点滅します。電源ボタンを押していないのに LED3 と4 が同時に点滅する場合は、バッテリーが異常であることを示しています。インテリジェント フライト バッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。

低温注意

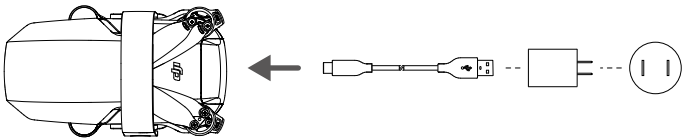
- 1. 低温環境（0℃ ～ 5℃）で飛行すると、バッテリー容量は著しく減少します。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることを推奨します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
- 2. バッテリーが本来の性能を発揮するために、バッテリー温度を 20℃ 以上に維持してください。
- 3. 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風速抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行させてください。
- 4. 海拔の高いところでの飛行にはさらに注意が必要です。

⚠ • 低温環境では、バッテリーをバッテリー収納部に装填して、離陸する前に機体の電源を入れ、ウォームアップするようにしてください。

バッテリーの充電

飛行前に、毎回インテリジェント フライト バッテリーを完全に充電してください。DJI Mini 4K の 2WAY 充電ハブ、DJI 30W USB-C 充電器、その他のPD規格対応のUSB充電器など、DJI が提供する充電器を使用することをお勧めします。

- 1. USB充電器をAC電源（100-240V、50/60Hz）に接続します。必要に応じて電源アダプターを使用してください。
- 2. 機体をUSB充電器に取り付けます。
- 3. 充電中、バッテリー残量LEDは現在のバッテリー残量を表示します。
- 4. バッテリー残量LEDがオンになったら、インテリジェント フライト バッテリーの充電は完了です。バッテリーが完全に充電されたら、USB充電器を取り外します。





- 機体の電源が入っているとバッテリーを充電できません。
- 飛行直後はインテリジェント フライトバッテリーを充電しないでください。高温になっている場合があります。常温になるまで待って、充電してください。
- バッテリーセルの温度が動作範囲（5℃～40℃）内でない場合、充電器はバッテリーの充電を停止します。推奨する充電温度範囲は22℃～28℃です。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。
- QC2.0またはPD2.0規格に対応したUSB充電器を使用して充電することをお勧めします。DJIは、指定された要件を満たしていない充電器の使用によって生じた損害については責任を負いません。



- DJI 18W USB充電器を使用する場合、充電時間は約1時間22分です。
- 移動中または保管中は、インテリジェント フライトバッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。このようにするには、バッテリー残量が30%未満になるまで機体を屋外で飛行させます。
- バッテリー充電ハブを使用すると、最大3個のバッテリーを充電できます。バッテリー充電ハブの詳細については、公式DJIオンラインストアをご覧ください。

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
				0% < バッテリー残量 ≤ 50%
				50% < バッテリー残量 ≤ 75%
				75% < バッテリー残量 < 100%
				充電完了



- 使用している USB 充電器によって、バッテリー残量 LED の点滅頻度は異なります。充電速度が高速な場合、バッテリー残量 LED が素早く点滅します。充電速度が極端に遅い場合、バッテリー残量 LED がゆっくり点滅します（2 秒に 1 回）。USB-C ケーブルまたは USB 充電器を変更することをお勧めします。
- バッテリーが機体に正しく挿入されていない場合、LED3 と LED4 が同時に点滅します。インテリジェント フライトバッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。
- 4 つの LED が同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

バッテリー保護メカニズム

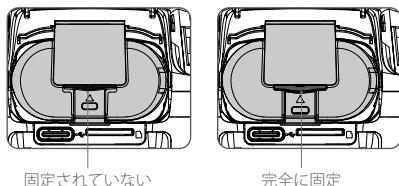
バッテリー LED インジケーターは、充電の異常状態で発動したバッテリー保護状態を示すことができます。

バッテリー保護メカニズム					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	バッテリー保護項目
				LED2 が毎秒 2 回点滅	過電流検知
				LED2 が毎秒 3 回点滅	短絡検知
				LED3 が毎秒 2 回点滅	過充電検知
				LED3 が毎秒 3 回点滅	充電器の過電圧検知
				LED4 が毎秒 2 回点滅	充電温度が低すぎる
				LED4 が毎秒 3 回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムのいずれかが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度が異常な場合は、充電温度が正常に戻るまで待ちます。充電器のプラグを抜き差しすることなく、バッテリーは自動的に充電を再開します。

バッテリーの取り付け／取り外し

使用前にインテリジェント フライトバッテリーを機体に取り付けます。バッテリーをバッテリー収納部に挿入し、バッテリークランプを固定します。バッテリーが完全に挿入されると、カチッという音がします。バッテリーが完全に挿入され、バッテリーカバーが所定の位置に固定されていることを確認してください。



バッテリークランプを押し、バッテリー収納部からバッテリーを取り出します。

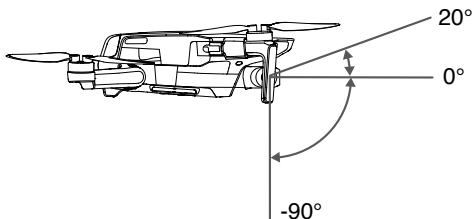


- 機体の電源が入っているときにバッテリーを取り出さないでください。
- バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ジンバル&カメラ

ジンバルの特徴

DJI Mini 4K の 3 軸ジンバルは、カメラを安定させ、これによりクリアで安定した画像や動画を撮影できます。チルト制御範囲は $-90^{\circ} \sim +20^{\circ}$ です。デフォルトでのチルト制御範囲は $-90^{\circ} \sim 0^{\circ}$ で、この範囲はDJI Flyアプリの[上方ジンバルの回転を許可]を有効化することにより $-90^{\circ} \sim +20^{\circ}$ に拡張できます。



送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Fly でカメラビューに入ります。円が表示されるまで画面を押し、円を上下にドラッグしてカメラのチルトを操作します。

ジンバル操作モード

2 種類のジンバル操作モードがあります。DJI Fly の各操作モードを切り替えます。

フォローモード：ジンバルの向きと機体の前面の角度は、常に一定の角度を保ちます。

FPV モード：ジンバルが機体の動きと同調して、一人称視点の飛行体験を提供します。



- 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源をオンにした状態でジンバルを押ししたり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から離陸させてください。
- 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバルが異常な動きをすることがあります。
- ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
- 以下のような場合、ジンバルモーターエラーが発生する場合があります：a. 機体が平らでない地面に置かれているか、ジンバルが阻害されている場合。b. 衝突時など、ジンバルに外からの過剰な力を受けた場合。
- ジンバルの電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。ジンバルに負荷をかけないでください。ジンバル動作の不具合や、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
- 機体の電源をオンにする前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。また、機体を使用しないときは、必ずジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

カメラに関する注記



- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
- レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷を防いでください。
- カメラの通気口をふさがないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。

写真および動画の保存


DJI Mini 4K では、microSD カードを使用して写真や動画を保存することができます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-I スピードクラス 3 規格以上の microSD カードが必要です。推奨 microSD カードに関しては、仕様のセクションを参照してください。

microSD カードを挿入しなくても、シングル撮影や、通常の 720p 動画撮影が可能です。ファイルはモバイル端末に直接保存されます。



- 機体の電源がオンのときは、機体から microSD カードを抜かないでください。microSD カードが損傷する可能性があります。
- カメラシステムが安定して動作するように、1 回の動画撮影は 30 分までに制限してください。
- ご使用前にカメラ設定を確認して、設定内容が正しいことを確認してください。
- 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作することを確認してください。
- 機体の電源がオフの場合、DJI Fly を使用して機体の microSD カードから写真や動画を送信することはできません。
- 機体の電源は必ず正しく切るようにしてください。カメラのパラメーターが正しく保存されず、記録された動画が破損する可能性があります。画像や動画の記録の失敗、機械が読み取れない方式で記録された画像や動画の不具合に対し、DJI は一切責任を負いません。

写真と動画のダウンロード

1. 機体が送信機を介してモバイル端末に接続されており、モーターが始動していないことを確認してください。
2. DJI Fly を起動し、再生画面に入り、左上隅の  をタップして、ダウンロードするファイルにアクセスします。

送信機

本セクションでは、送信機の各機能について説明します。また、機体とカメラの操作手順についても説明します。

送信機



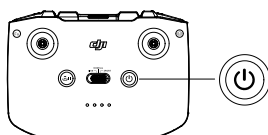
- 法規の準拠：送信機は現地法規に準拠しています。
- 操作スティックモード：各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

送信機の使用

電源のオン／オフ

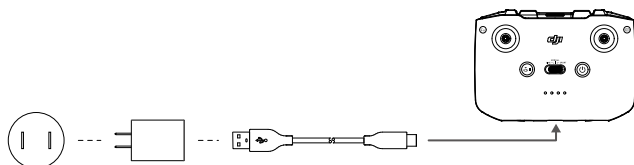
電源ボタンを1回押して、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が少ない場合、使用前に充電してください。

ボタンを1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



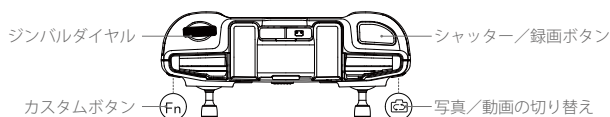
バッテリーの充電

USB-C ケーブルを使用して、USB 充電器を送信機の USB-C ポートに接続します。



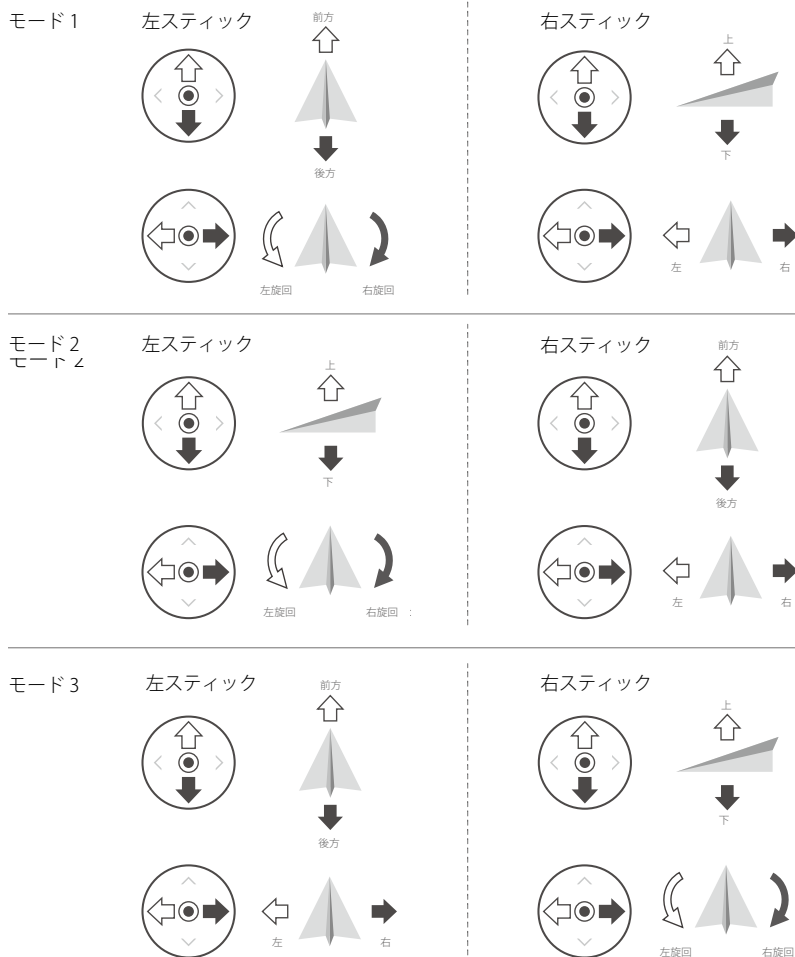
ジンバル&カメラの操作

1. シャッター／録画ボタン：カメラビューで、シャッター／録画ボタンを押すと写真撮影または録画の開始／停止を行います。
2. 写真／動画の切り替え：1回押すと、写真モードと動画モードを切り替えます。
3. ジンバルダイヤル：このダイヤルでジンバルのチルトを調節します。
4. カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用すると、動画モードでズームを調整します。




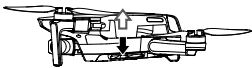
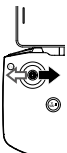
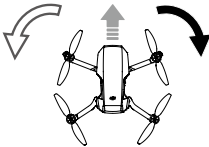

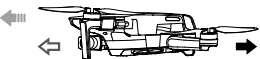


機体の制御

操作スティックを使用して、機体の方向（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、および左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。



あらかじめプログラムされている 3 つのモード（モード 1、モード 2、モード 3）を使用でき、DJI Fly でカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード 2 です。下図ではモード 2 を例にして、各操作スティックの使用方法を説明しています。

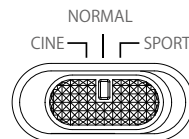
- スティック ニュートラル/中心点：操作スティックはセンターポジションにあります。
 •操作スティックを動かす：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

送信機 (モード 2)	機体 (◀機首方向を示す)	備考
		<p>スロットルスティック：左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。</p> <p>上昇するにはスティックを上倒し、下降するには下倒しします。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。</p> <p>機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。</p>
		<p>ヨースティック：左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。</p> <p>スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。</p> <p>スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。</p>
		<p>ピッチスティック：右スティックを上下に動かすと、機体のピッチを変えられます。</p> <p>スティックを上倒すと前進し、下倒すと後進します。</p> <p>スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。</p>
		<p>ロールスティック：右スティックを左右に動かすと、機体のロールを変えられます。</p> <p>左に押すと左に飛行し、右に押すと右に飛行します。</p> <p>スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。</p>

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

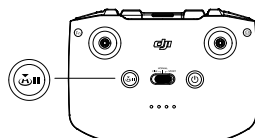
位置	フライトモード
SPORT	スポーツモード
NORMAL	ノーマルモード
CINE	シネモード



飛行一時停止／RTH ボタン

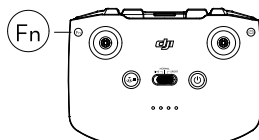
一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。機体がクイックショット、RTH、または自動着陸を実行している場合は、ブレーキをかける前に一度押すと、機体はそのプロセスを終了します。

RTHを開始するには、送信機からピープ音が鳴るまでRTH ボタンを長押しします。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。RTHの詳細については、「RTH (Return-to-Home: 帰還)」セクションを参照してください。



カスタムボタン

DJI Fly の [システム設定] に移動し、[制御] を選択してこのボタンの機能をカスタマイズします。カスタム可能な機能には、ジンバルの再センタリングや、マップとライブビューの切り替えが含まれます。



送信機のアラート

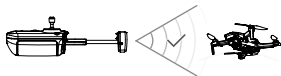
送信機は RTH 中にアラートを鳴らします。アラートをキャンセルすることはできません。送信機は、バッテリー残量が低下 (6% ~ 15%) するとアラートが鳴ります。電源ボタンを押すことにより、ローバッテリー警告をキャンセルできます。重度のローバッテリー残量警告 (5% 未満) はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

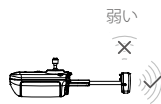
機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の相対的な位置関係が下の図に示すようになっているときに最も信頼性が高くなります。



最適な伝送範囲



弱い



強い

送信機のリンク

送信機は出荷前に機体とリンクされています。リンク作業は、新しい送信機を初めて使用する場合にのみ必要です。新しい送信機をリンクするには、以下の手順に従ってください。

1. 送信機と機体の電源を入れます。
2. DJI Fly を起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする(リンク)]を選択します。送信機からピープ音が鳴り続けます。
4. 機体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。機体はピープ音を 1 回鳴らし、リンクの準備ができたことを示します。リンクが正常に行われたら、機体でピープ音が 2 回鳴ります。送信機のバッテリー残量 LED が点灯します。



- リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- OcuSync 2.0 動画伝送接続を使用する場合は、Bluetooth と Wi-Fi をオフにしてください。そうしない場合、動画伝送に影響を与えるおそれがあります。



- 飛行の前には必ず送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラートが鳴ります。
- 送信機の電源がオンの状態で 5 分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6 分経過すると、自動的に機体の電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押してアラートをキャンセルしてください。
- モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末が確実に固定されるようにします。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 か月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。

送信機の警告

機体との接続が切れると、バッテリー残量LEDがゆっくりと点滅し始めます。機体との接続が切れたり、機体の操作を長時間行わなかったりした場合、送信機はピープ音を鳴らして、その後、電源が切れます。



- 送信機と他の無線機器との干渉を避けてください。モバイル端末のWi-Fiを必ずオフにしてください。強い干渉がある場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。
- 飛行をモニタリングするためにモバイル端末を使用していて、照度条件が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、機体を操作しないでください。ユーザーは、画面の明るさを適切に調整し、パイロットは飛行中のモニターへの直射日光に注意を払う必要があります。
- 意図しない操作ミスが発生した場合、操作スティックの操作を中止するか、飛行一時停止ボタンを押してください。

DJI Fly アプリ

本セクションでは、DJI Fly アプリの主要機能について説明します。

DJI Fly アプリ

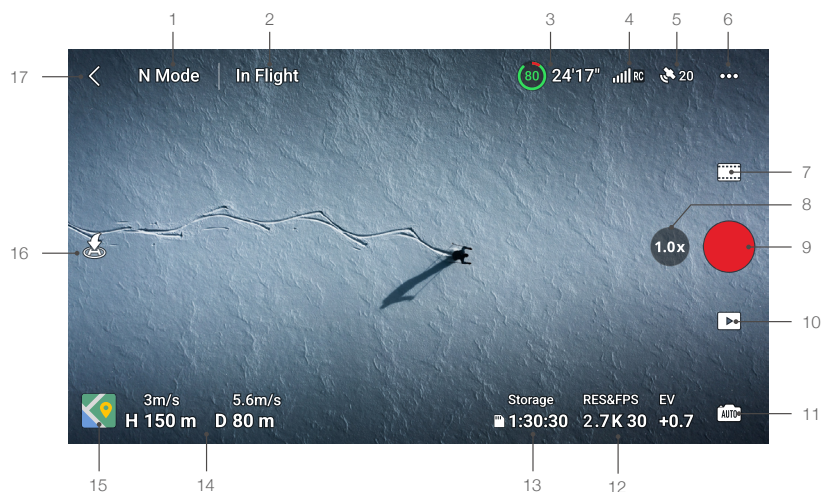
ホーム

- ☀️ • DJI Flyのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際の使用感は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

DJI Fly を起動して、ホーム画面に移動すると、次の機能が使用できます。

- チュートリアルビデオ、ユーザーマニュアル、フライトスポット、飛行のヒントなどを検索できます。
- 各地域の規制要件を確認し、フライトスポットに関する情報を入手できます。
- 機体アルバムやローカルデバイスに保存された映像から写真やビデオを表示したり、SkyPixelからさらに多くの共有映像を閲覧したりできます。
- DJIアカウントでログインし、アカウント情報を確認できます。
- アフターサービスやサポートを受けることができます。
- ファームウェアを更新したり、オフラインマップをダウンロードしたり、「ドローンを探す」機能にアクセスしたり、DJI ForumやDJIストアを利用したりできます。

カメラビュー



1. フライトモード

Nモード：現在のフライトモードを表示します。

2. システムステータスバー

飛行中：機体の飛行状況を示し、様々な警告メッセージを表示します。警告プロンプトが表示されたら、タップして詳細情報を表示します。

3. バッテリー情報

(80)24:17"：現在のバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。タップすると、バッテリーの詳細情報が表示されます。

4. 動画ダウンリンク信号強度

RC：機体と送信機との間の動画ダウンリンク信号強度を表示します。

5. GPSステータス

 ²⁰ : 現在のGPSの信号強度を表示します。

6. システム設定

●●●: タップすると、安全／制御／カメラ／伝送についての情報が表示されます。

安全

RTH: タップすると、RTH高度を設定したり、ホームポイントを更新したりできます。

飛行時の保護機能: タップすると、飛行の最大高度と最大距離を設定できます。

センサー: タップすると、コンパスとIMUのステータスを表示し、必要に応じてキャリブレーションを開始します。

GEO区域をロック解除: タップすると、GEO区域のロック解除に関する情報を表示できます。

ドローンを探す: マップを使用して地上にある機体の位置を検索します。

高度安全設定: 信号が失われた時の機体の動作設定、緊急プロペラ停止、およびペイロードモードが含まれます。

送信機信号が失われた時の機体の動作には、「Return-to-Home」、「下降」、「ホバリング」に設定できます。

プロペラ緊急停止の設定での「緊急時のみ」とは、飛行中に衝突が起きたり、モーターが動かなかったり、空中でローリングしたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したりなどの緊急事態にのみ、モーターを停止できることを示します。緊急プロペラ停止の「随時」は、ユーザーがコンビネーションスティック コマンド (CSC) を実行すると、飛行中にいつでもモーターを停止できることを示します。

機体にアクセサリが取り付けられている場合、ペイロードが検出されると、ペイロードモードが自動的に有効になります。ペイロードを取り付けて飛行する場合、そのペイロードに応じて、飛行性能が低下します。ペイロードモードが有効な場合、運用限界高度（海拔）は2000 mであり、最大飛行速度や最大飛行距離は制限されることに注意してください。

 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

制御

機体設定: タップすると、単位系などを設定できます。

ジンバル設定: タップすると、ジンバルモードの設定、上方ジンバル回転の許可、ジンバルの再センタリング、ジンバルのキャリブレーションを行います。高度なジンバル設定には、ピッチとヨーの速度と滑らかさが含まれます。

送信機設定: タップすると、カスタムボタンの機能の設定、送信機キャリブレーション、接続されたiOSデバイスの充電、操作スティックモードの切り替えなどを行えます。操作スティックモードを切り替える前に操作スティックモードの操作について必ず理解しておいてください。

ビギナー飛行チュートリアル: 飛行チュートリアルを表示します。

機体に接続する: 送信機と機体がリンクされていないときにタップすると、リンクを開始します。

カメラ

写真: タップして、写真サイズを設定します。

一般設定: タップすると、ヒストグラム、露出オーバー警告、グリッド線、ホワイトバランス、HD写真の自動同期の確認や設定を行えます。

ストレージ: タップして、microSDカードの容量とフォーマットを確認します。

キャッシュ設定: タップして、録画時のキャッシュと最大動画キャッシュ容量を設定します。

カメラパラメーターのリセット: タップすると、すべてのカメラ設定をデフォルトに戻すことができます。

伝送

周波数およびチャンネルモードの設定。

[ライブ配信プラットフォーム]を選択すると、カメラビューをリアルタイムで配信できます。

詳細

端末情報、ファームウェア情報、アプリのバージョン、バッテリーのバージョンなどを表示します。

7. 撮影モード

■ 静止画：シングル、オート露出ブラケット (AEB)、タイマー撮影。

動画：動画解像度は、4K@24/25/30 fps、2.7K@24/25/30/48/50/60 fpsおよび1080p 24/25/30/48/50/60fpsに設定できます。

パノラマ：スフィア、180°、広角。機体は、選択されたパノラマの種類に応じて、自動的に数枚の写真を撮影し、DJI Flyでパノラマ写真を生成します。

クイックショット：ドローニー、サークル、ヘリックス、ロケット、プーメランから選択します。

8. ズーム

1.0x：アイコンはズーム倍率を示しています。タップして、ズーム倍率を調整します。アイコンをタップしたまま長押しすると、ズームバーが展開され、バーをスライドするとズーム倍率を調整できます。

9. シャッター／録画ボタン

●：タップして写真を撮影する、もしくは録画を開始／停止します。

10. 再生

▶：タップすると、再生画面に入り、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。

11. カメラモード切り替え

AUTO：写真モードのときは、オートモードもしくはマニュアルモードを選択できます。マニュアルモードでは、シャッターとISOを設定できます。オートモードでは、AEロックとEVを設定できます。

12. 撮影パラメーター

RES&FPS EV
2.7K 30 +0.7
：現在の撮影パラメーターを表示します。タップしてパラメーター設定にアクセスします。

13. microSDカード情報

ストレージ 1:30:30
：現在のmicroSDカードの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。タップしてmicroSDカードの使用可能な容量を表示します。

14. フライトテレメトリ

D 80 m、H 150 m、5.6 m/s、3 m/s：機体とホームポイント間の距離、ホームポイントからの高さ、機体の水平速度、および機体の垂直速度を表示します。

15. 地図

機体の方向やチルトアングル、送信機の位置、ホームポイントの位置などの情報を表示します。



16. 自動離陸／自動着陸／RTH

↑/↓：アイコンをタップします。プロンプトが表示され、ボタンを長押しすると、自動離陸や自動着陸が開始します。

🏠をタップするとスマートRTHが起動し、最後に記録されたホームポイントに機体を帰還させます。

17. 戻る

<：タップするとホーム画面に戻ります。

円が表示されるまで画面を押し、円を上下にドラッグしてジンバルのチルトを操作します。



- DJI Fly を起動する前に、モバイル端末を完全に充電してください。
 - DJI Fly を使用する際は、モバイルデータ通信容量を使用します。データ使用料についてはお使いの通信会社にお問い合わせください。
 - スマートフォンをディスプレイ機器として使用している場合は、飛行中に電話を受けたり、テキストメッセージ機能を使用したりしないでください。
 - 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連法規を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて理解、順守して飛行する責任があります。
 - a) 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
 - b) 初期状態の制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
 - c) フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - d) GEO 区域内またはその近くで出される警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
 - e) インテリジェント フライトモードを使用する前に、あらかじめ警告メッセージを読んで理解しておいてください。
 - アプリ上で、着陸するように指示するプロンプトが表示された場合は、安全な場所にすぐに機体を着陸させてください。
 - 各フライトの前にアプリに表示されているチェックリストの警告メッセージをすべて確認してください。
 - これまでに機体の操作経験がない場合、または自信を持って機体を操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのチュートリアルを使って、飛行技術を練習してください。
 - 飛行を開始する前にインターネットに接続して、飛行地域の地図データをキャッシュしてください。
 - このアプリは、操作をアシストするために設計されています。アプリに頼りすぎず、適切な裁量に基づいて機体を操作してください。アプリの使用は、DJI Fly の利用規約と DJI のプライバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。
-

飛行

本セクションでは、安全な飛行方法と飛行に関する制限事項について説明します。

飛行

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行を心がけてください。飛行は常に障害物のない開けた場所で行ってください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。飛行する前に、安全ガイドラインを読んで、安全上の注意について理解しておいてください。

飛行環境の条件

1. 風速10.7 m/s超のとき、雪、雨、霧などの悪天候時には、飛行させないでください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建造物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスやGPSシステムの精度に影響を及ぼす場合があります。機体は、構造物から最低でも5 m以上離れて距離を保つことをお勧めします。
3. 障害物、人混み、高圧送電線、樹木、水域を避けてください。機体は、水際から最低でも3 m以上離れて距離を保つことをお勧めします。
4. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
5. 機体やバッテリーの性能は、大気密度や気温などの環境要因に左右されます。インテリジェントフライトバッテリーを使用して飛行する場合、機体の最大運用限界高度（海拔）は4000 mです。バッテリーと機体の性能が低下するおそれがあります。
6. 機体は、南極圏、北極圏でGPSを使用することはできません。そのような場所で飛行させる時は下方ビジョンシステムを使用してください。
7. ボートや乗り物などの動くものから離陸させないでください。
8. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体を使用しないでください。
9. バッテリー充電ハブの使用は、5～40℃の範囲の温度環境で行ってください。
10. 機体、バッテリー、送信機、バッテリー充電ハブは、乾いた環境で運用してください。
11. 雪、雨、氷、雹、霧などの悪天候時には、バッテリー充電ハブを使用しないでください。
12. 機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電ハブを、塩水噴霧、鳥が群がっている場所、雷雨や砂嵐時には使用しないでください。

責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がないこと、また、身体的、精神的に、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸したら、まず機体の電源を落としてから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した機体、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 操縦者が十分に操縦に熟達しており、緊急事態や事故発生時への対応策があることを確認してください。

6. 飛行計画が策定されていることを確認し、無謀な飛行は行わないでください。
7. カメラを使用するときは、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
8. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。違法または不適切な目的（スパイ行為、軍事作戦、不正捜査など）のために使用しないでください。
9. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他人の法的権利（プライバシー権や肖像権など）を侵害する行為に使用しないでください。
10. 他人の私有地に侵入しないでください。

飛行制限とGEO区域

GEO (Geospatial Environment Online)システム

DJIのGEO (Geospatial Environment Online)システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域でのUAVの飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。その前に、ユーザーは目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出します。GEOシステムは現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ユーザーは自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでの飛行のロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEOシステムについての詳細は、次のサイトをご覧ください：<http://www.dji.com/flysafe>

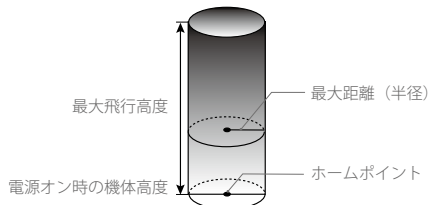
飛行制限

無人飛行体（UAV）の操縦者は、ICAO（国際民間航空機関）、FAA（米国連邦航空局）、現地の航空当局などの自主規制機関の定める規制に従わなければなりません。安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効化されており、ユーザーが機体を安全に合法的に使用できるようになっています。ユーザーは飛行制限の高度と距離を設定できます。

GPSが利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO区域の機能が同時に働き、飛行の安全を管理します。GPSが利用できない場合は、高度のみを制限できます。

飛行高度と距離制限

飛行高度と飛行距離の制限は、DJI Fly で変更できます。これらの設定に基づき、機体は下図のような制限円筒内で飛行します。



GPS 有効時

	飛行制限	DJI Fly アプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	機体の高度が指定の値を超えることはできません	警告：高度制限に到達	緑色と赤色に交互に点滅
最大距離 (半径)	飛行距離は最大距離 (半径) 内であればなりません	警告：距離制限に到達	

GPS 信号が弱い場合

	飛行制限	DJI Fly アプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	GPS 信号が弱く、赤外線検知システムが動作している場合、高度は 5 m に制限されます。 GPS 信号が弱く、赤外線検知システムが動作していない場合、高度は 30 m に制限されます。	警告：高度制限に到達。	赤色と緑色に交互に点滅
最大距離 (半径)	最大距離 (半径) の制限が無効となり、アプリで警告プロンプトを受信できなくなります。		



- 機体の電源が入ったときに GPS 信号が弱以上である限り（白または黄色の信号バー）、飛行中に GPS 信号が弱くなっても、高度制限は生じません。
- 機体が GEO 区域内で GPS 信号が弱い場合、機体ステータスインジケーターは 12 秒ごとに 5 秒間赤く点灯します。
- 機体が高度または飛行距離の制限に達した場合でも機体を制御することはできますが、それ以上遠くには飛行できません。本機が最大半径の外へ飛行した場合、GPS 信号が強ければ自動で範囲内に戻ります。
- 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで飛行しないでください。機体は、常に目視内で飛行させてください。

GEO 区域

DJI 公式ウェブサイト (<http://www.dji.com/flysafe>) には、GEO 区域の一覧が掲載されています。GEO 区域は異なるカテゴリー別に分類され、空港、有人飛行機が低空で操縦されている飛行場、国境、および発電所などの要注意区域が含まれています。

機体が GEO 区域に近づいている場合、DJI Fly にプロンプトが表示され、その区域での飛行に関して制限を受けます。


フライト前チェックリスト

1. ジンバル プロテクターが取り外されていることを確認してください。
2. 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
3. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかり取り付けられ、プロペラが広げられていることを確認してください。
4. 機体のアームが展開していること確認を確認してください。
5. ジンバル&カメラが正常に機能することを確認してください。
6. モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
7. DJI Flyアプリが機体に正しく接続されていることを確認してください。
8. カメラレンズと下方ビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
9. DJIの純正部品またはDJIが認定する部品のみをご使用ください。非純正の部品やDJI認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性が損なわれるおそれがあります。
10. 現地の規制に従って、最大飛行高度が適切に設定されていることを確認してください。
11. 人口密集地域の上空を飛行しないでください。
12. 機体と送信機が正常に機能していることを確認してください。

自動離陸／自動着陸

自動離陸

機体ステータスインジケーターが緑色に点滅している場合に、自動離陸を使用します。

1. DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
2. フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
3.  をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
4. 機体は離陸し、地上約 1.2 m の高さでホバリングします。





・機体ステータスインジケーターが緑色に 2 回点滅するのを繰り返している時は、機体は下方ビジョンシステムを使用して飛行し、高度 30 m 未満でのみ安定して飛行できることを示します。機体ステータスインジケーターがゆっくりと緑色に点滅するまで待つてから、自動離陸機能を使用することをお勧めします。

・ポートや乗り物などの動くものから離陸しないでください。

自動着陸

機体ステータスインジケーターが緑色に点滅している場合に、自動着陸機能を使用します。

1.  をタップします。安全に着陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
2.  をタップすると自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後にモーターは停止します。



・着陸に適切な場所を選択してください。

モーターの始動と停止

モーターの始動

モーターの始動には、コンビネーション スティック コマンド (CSC) を使用します。両方のスティックを内側下角または外側下角に向けて倒して、モーターを始動します。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。

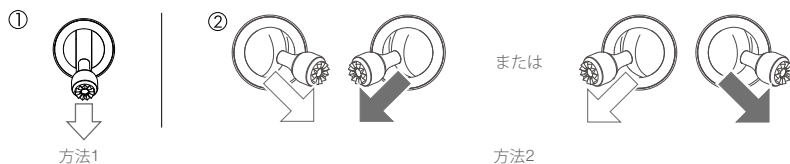


モーターの停止

モーターの停止方法は2通りあります。

方法1：機体が着陸したら、スロットルスティックを下に倒し続けます。モーターは3秒後に停止します。

方法2：機体が着陸したら、スロットルスティックを下に倒し、モーター始動時と同じCSCコマンドを2秒間実行すると、モーターが停止します。モーターが停止したら両スティックを離します。



モーターが予期せずに起動したら、同じコンビネーション スティック コマンド (CSC)を実行してモーターをすぐに停止してください。

飛行中のモーター停止

飛行中のモーター停止は、衝突が起きたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したり、空中でローリングしたり、モーターが動かなくなるなど緊急事態が発生した場合にのみ行ってください。飛行中にモーターを停止させるには、モーター始動時と同じCSCを2秒間使用します。デフォルトの設定は、DJI Flyで変更できます。

⚠ • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体ステータスインジケーターが自分の方を向くようにして機体を置きます。
2. 送信機と機体の電源を入れます。
3. DJI Fly を起動し、モバイル端末を機体に接続して、カメラビューに入ります。
4. 機体ステータスインジケーターがゆっくりと緑色に点滅して、ホームポイントが記録され飛行しても安全であることが示されるのを待ちます。
5. スロットルスティックをゆっくり上に倒すか、自動離陸を使用して、離陸します。
6. スロットルスティックを下に倒すか、自動着陸を使用して、機体を着陸させます。
7. 着陸後、スロットルを下方方向に倒しつづけます。モーターは 3 秒後に停止します。
8. 機体と送信機の電源を切ります。

動画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、安全に飛行し、飛行中に確実に動画を撮影できるようにすることにあります。飛行の前には、必ず、フライト前チェックリストをすべて確認してください。
2. DJI Fly で目的のジンバル操作モードを選択してください。
3. ノーマルモードまたはシネモードで飛行する時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
4. 雨天や強風時など、悪天候のとき飛行しないでください。
5. ニーズに合ったカメラ設定を選択してください。
6. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
7. 操作スティックをゆっくり操作してスムーズで安定した動きを維持してください。



ご自身の安全と周りの人々の安全のため、基本的な飛行ガイドラインを理解しておくことが重要です。

免責事項と安全に関するガイドラインを必ずお読みください。

付録

付録

仕様

仕様については、以下のウェブサイトをご参照してください。

<https://www.dji.com/mini-2-se/specs>

コンパスのキャリブレーション

屋外飛行時に以下のいずれかの状況では、コンパスをキャリブレーションすることをお勧めします。

1. 機体の最終飛行場所から 50 km 以上離れた地点で飛行する場合。
2. 本機を 30 日以上飛行しなかった場合。
3. DJI Fly にコンパス干渉警告が表示されたり、機体ステータスインジケーター が赤色と黄色に交互に点滅する場合。

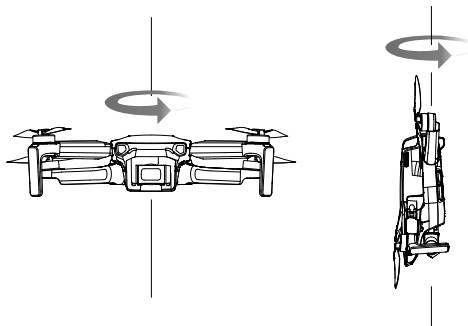


- 磁鉄鉱床や大きい金属製建造物（駐車場ビル、鋼心地下室、橋、車両、足場など）の近くなど、磁気干渉が発生しやすい場所でコンパスのキャリブレーションを行わないでください。
- キャリブレーションを実施する際、携帯電話などの強磁性物質を含むものを機体の近くに持ち込まないでください。
- 屋内で飛行させる時は、コンパスのキャリブレーションは不要です。

キャリブレーション手順

障害物のない開けた場所を選んで、以下の手順を実施してください。

1. DJI Fly のシステム設定をタップし、[安全] を選択してから [キャリブレーション] を選択し、画面の指示に従います。機体ステータスインジケーターが黄色に点灯したら、キャリブレーションを開始します。
2. 機体を水平に保ち、360 度回転します。機体ステータスインジケーターが緑色に点灯します。
3. 機体を垂直に保ち、垂直軸方向に 360 度回転します。
4. 機体ステータスインジケーターが赤色で点滅する場合は、キャリブレーションに失敗したことを示します。場所を変えてもう一度キャリブレーション手順をやり直してください。



- キャリブレーションの完了後に機体ステータスインジケーターが赤色と黄色に交互に点滅する場合は、磁気干渉レベルのため、現在の場所が機体の飛行に適していないことを示します。新しい飛行場所を選択してください。



- 離陸前にコンパス キャリブレーションが必要な場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。
- キャリブレーションが完了すると、機体は直ちに離陸できます。キャリブレーション終了後 3 分以内に離陸しない場合は、再度キャリブレーションが必要です。

ファームウェアの更新

機体や送信機を DJI Fly に接続したときに新しいファームウェアの更新がある場合、通知されます。更新を行うには、モバイル端末をインターネットに接続し、画面の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。



- ファームウェアの更新は必ず上記手順に従って行ってください。手順に従わないと、更新に失敗する場合があります。ファームウェアの更新が完了すると、機体の電源が自動的にオフになります。
- ファームウェアの更新には約 10 分かかります。ジンバルが遅れて動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでお待ちください。
- 更新を実行する前に、インテリジェント フライトバッテリーのバッテリー残量が 15% 以上あり、送信機のバッテリー残量が 20% 以上あることを確認してください。
- 更新後、送信機と機体とのリンクが切れる場合があります。送信機と機体を再リンクしてください。ファームウェアを更新すると、メインコントローラーの各種設定（RTH 高度や最大飛行距離など）が出荷時のデフォルトにリセットされることがあります。更新の前に、好みに変更した DJI Fly の設定を別途記録し、更新が完了したら設定し直してください。

アフターセールス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support> をご覧ください。

メンテナンスについての指示

子供や動物への深刻な傷害を避けるために、次の規則を守ってください。

- ケーブルやストラップなどの小さい部品は、飲み込むと危険です。すべての部品を子供やペットの手の届かない場所に保管してください。
- 内蔵のLiPoバッテリーが過熱しないように、インテリジェント フライトバッテリーと送信機は直射日光の当たらない、涼しくて乾燥した場所に保管してください。推奨保管環境温度：3ヵ月以上の期間にわたって保管する場合は、22℃～28℃。温度が-10℃～45℃の範囲を超える環境では保管しないでください。
- カメラを、水などの液体に接触させたり、浸したりしないでください。万が一濡れた場合は、乾いた柔らかい吸収性の高い布で、拭いてください。落下し浸水した機体の電源を入れると、構成部品が完全に損傷する恐れがあります。アルコール／ベンジン／シンナーなどの可燃性物質を含む物質を用いて、カメラを清掃したりメンテナンスしたりしないでください。湿気や埃の多い場所にカメラを保管しないでください。
- 本製品をバージョン3.0より古いUSBインターフェースに接続しないでください。本製品を「Powered USB」や、それに似たデバイスに接続しないでください。

5. 墜落や激しい衝撃を受けた場合は、機体の各パーツを確認してください。問題が発生した場合やご質問がある場合は、DJI正規代理店にご連絡ください。
6. バッテリー残量インジケーターを定期的に確認して、現在のバッテリー残量とバッテリー駆動時間を確認してください。バッテリーの定格は200サイクルです。これを超える使用は、推奨していません。
7. フライト後チェックリスト
 - a. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラが良好な状態であることを確認してください。
 - b. カメラレンズとビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
 - c. 機体を保管したり輸送する前に、ジンバル プロテクターを必ず取り付けないようにしてください。
8. 電源オフ時には、必ずアームを折りたたんだ状態で機体を輸送するようにしてください。
9. 長期間保管すると、バッテリーはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するには、バッテリーを充電してください。
10. 機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電ハブは乾いた環境で保管してください。
11. 機体を整備（清掃、またはプロペラの取り付け／取り外しなど）する前に、バッテリーを取り外してください。機体とプロペラがきれいであることを確認してください。汚れや埃がある場合は、柔らかい布で拭き取ってください。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。機体を水で洗ったりしないでください。液体が機体のハウジングに侵入し、電子回路を短絡させる原因となります。液体により、機体の電子部品が破損することがあります。

認定アクセサリーを含む品目一覧

品目	重量	サイズ
DJI Mini 2 プロペラ	1.9 g（各組）	119.38×66.04 mm（直径×ピッチ）
DJI Mini 2 インテリジェント フライトバッテリー	82.5 g	75×38.7×19.6 mm
Mavic Mini DIYクリエイティブキット	約2 g	14.6×8.3×0.3 mm
microSDカード	約0.3 g（1 g以下）	15×11×1.0 mm

スペアおよび交換部品の一覧

1. DJI Mini 2 プロペラ
2. DJI Mini 2 インテリジェント フライトバッテリー

セーフガードの一覧

以下は、DJI Mini 4Kのメカニカルセーフガードと操作セーフガードの一覧です。

1. 緊急事態が発生した場合に、コンビネーション スティック コマンド (CSC)を実行してプロペラを停止できます。詳細については、「モーターの始動／停止」セクションを参照してください。
2. Return-to-Home (RTH)機能。詳細については、「Return-to-Home」セクションを参照してください。

3. ビジョンシステムおよび赤外線検知システム。詳細については、「ビジョンシステムおよび赤外線検知システム」のセクションを参照してください。
4. DJI GEOシステムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供し、制限空域でのUAVの飛行を防止します。詳細については、「飛行制限」のセクションを参照してください。

リスクと警告

電源を入れた後、機体が危険を検知すると、DJI Flyアプリに警告プロンプトが表示されます。以下に記載されている状況に注意してください。

1. 離陸に適していない場所では、DJI Flyアプリにプロンプトが表示されます。
2. 着陸に適していない場所では、DJI Flyアプリにプロンプトが表示されます。
3. コンパスまたはIMUが干渉を受け、キャリブレーションの必要がある場合、DJI Flyアプリにプロンプトが表示されます。
4. プロンプトが表示されたら画面上の指示に従います。

廃棄処分について

機体や送信機を廃棄するときには、電子機器に関する現地の規制を順守してください。



DJI サポート
<http://www.dji.com/support>

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。

<http://www.dji.com/mini-2-se>

本書についてご質問がある場合は、DJI (DocSupport@dji.com)
までメールでお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。

Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.